

東川で日本語学んだ研修卒業生が台湾で初の同窓会



思い出を語り合い、東川ファンクラブとして相互交流を深めることを誓いました。

東川町の外国人日本語研修制度は、2009（平成21）年に始まりました。

東川町日本語研修講座の修了生は延べ656人（昨年12月現在）。台湾からの研修生が最多で、小学生から65歳まで300人。次いで韓国延べ239人（中、高校生）、ほかに中国、ラトビアからも来町し、今年からはタイからも年間200人以上来町予定です。

世界各地の行事を体験くめだかクラブのクリスマス



昨年12月14日、農村環境改善センターでめだかクラブがクリスマス会を開きました。

「世界中のクリスマス」と題して、アメリカ、北欧、アフリカのクリスマス行事を楽しみました。

サンタクロースは、東神楽町の英語指導助手（ALT）、デルー・マイケルさん。「ホーツ、ホーツ、ホーツ」と登場すると、すぐに子どもたちが取り囲んで人気者。

スノーマンのオーナメント作りや北欧スカンジナビア地方のクリスマスデ

ザート・ライスプディングを食べながら、絵本読み聞かせも楽しみました。

ジャンベクラブ旭川（田村正和代表）はアフリカの打楽器（ジャンベ、ジンベ、ジンベともいう）を演奏。その不思議なリズムと踊りも楽しみました。

町のALT、カリン・ストロムさん、ステシー・フジカワさん、カトリナ・カイラさんと、国際交流員（CIR）のウナ・ヴォルコヴァさんの4人が中心になって企画しました。

強盗だ！ 備えて万全、農協で4年ぶり訓練

「金を出せ！」。農協の金融店舗に短銃を持った強盗が。

金融機関の歳末特別警戒期間中の昨年12月5日、東川町農協（板谷重徳組合長）の本所金融店舗に短銃強盗という想定で強盗訓練が行われました。

午後4時半、営業を終えた店舗に一人の若い男が…。カウンタに近づくと、窓口の女性職員にいきなり短銃を

突き付けました。「金を出せ、早くしろ！」。

訓練は4年ぶり。ほとんどのスタッフにとっては初めての訓練です。

犯人逃走後、人相、着衣の特徴を書き出して犯人像を特定するまでが訓練の内容。とはいうものの、観察メモには黒づくめの犯人の姿を「白いシャツ」と書いてあるなど、意外とあいまいな



記憶の不確かさが浮き彫りになったよう。この日の結果を今後の対応に生かすことにしています。

共同運営の子ども発達支援センター

東神楽町忠栄地区の忠栄公民館向かい（東神楽町19号）に、東川、東神楽両町で共同運営の子ども発達支援センター「おひさま」（千田浩一朗センター長）が誕生しました。昨年12月19日、山本進東神楽町長、松岡市郎町長と両町の議会議員らが出席して開所を祝いました。



感覚統合、体のバランス感覚を養うために7種のつりさげ遊具など9種類の遊具を備え充実したプレールームも出来ました。

両町で総事業費約2億4千500万円を2分の1ずつ負担し、約4千600平方メートルに木造サイディング平屋建て延べ約500平方メートルの建物を建設しました。現在1歳から小学校3年生まで74人が通っています。

五十嵐医師、愛用の写真機材を町に寄贈



旭川市内の眼科医、五十嵐良さん（72）が、旭川市2条通7丁目IIが、長年愛用のカメラ、交換用レンズ、三脚、ストロボなど写真用品一式を町に寄贈してくれました。

昨年12月12日、写真機材を役場に持参しました。国産のフィルム高級一眼レフカメラ、交換用レンズ、ビデオカメラ、三脚など27点。医師として欠かせない患部撮影用のメディカルレンズという特殊用途の機材も。

「古いボディーからずっと保存して

いる。写真甲子園でも頑張っているし、東川町なら…」と松岡市郎町長に長年大事にしてきた品々を託しました。

「蛍光眼撮影とか、造影剤を入れた撮影が必要で、仕事として写真を撮らなければならず、学会で発表するためにはいぶん使いました」と愛用の品々の思い出を話しました。

松岡町長は「写真など文化の拠点整備を考えています」などと愛用機材の寄贈に感謝しました。

初の異業種交流まじりのセミナー

昨年12月14、15の両日、天人峡温泉で町などが主催して次世代まちづくり連携セミナーを開きました。

役場、農協職員、農業後継者など町内の40歳未満約90人が集まり、1泊2日で懇親しながら異業種交流しました。

講師の東徹立教大教授は、町のブランドづくりと地域資源、まちづくりなどをテーマに「ただのおいしいメロンを食べたいのではなく、夕張メロン

を食べたい、と思わせるものがブランド力。価値をどうつけるか、大切さをどう意味づけするかが違いになる」と提言。

参加者は9グループに分かれて東川の「いいところ」「悪いところ」「住みやすいところ」「住みにくいところ」などを抽出しながら、まちの価値を高めるブランドづくり、まちづくりを話し合いました。



旧忠栄保育園施設を利用して開設していた「おひさま教室」（平成6年開設、同18年から改組）を、子供の療育発達をサポートする施設として全面リニューアルしました。

乳幼児健診などで育ちに不安がある子を中心に、週1回（1時間程度）通所し、遊びを通して発達を促す療育指導を受けることができます。心身の発達段階に寄り添って、母子ともに安心できるように子育て支援します。

最大の特徴は、防音室に聴力検査機器を備え、言語聴覚士が聴力検査できること。言葉の発達基礎となる聴覚機能チェックが身近の施設で可能になり